

京大天皇事件前後の学生運動

下

今西 一 (大阪大学招へい教授・小樽商科大学名誉教授)



と認めざるを得ない」としてしています。最初から「計画的な事件」にしたかった報告書とも言えます。

事前の状況と天皇制批判

報告書によると、「十月十九日、日共府委オルグ竹村寛は左記要旨の指令を下り細胞キヤップに流し」たとしています。その内容は――

(イ) ビラ、ポスターを電柱殊に天皇の見える場所特に島津製作所を中心とする地域一帯には徹底的に貼付、壁新聞細新では「天皇を戦犯として徹底的に叩かなければならない。」

民統(全京都民主戦線統一会議―引用者) 議員は府、市会において「天皇が来ることによつて必要以外の負担が我々に加わる。そんな費用があれば教育費に廻せ。」と闘うから、下部組織市民団体も併せて大衆にアピールせよ。

(ロ) 京都滞在中はメガホン隊を動員できる位に準備しておくこと。

そして「本指令の実践過程に水谷氏宅暴行事件、米宣教師乗用車毀損事件、壁新聞撤去事件が惹起していることに注目しなければならぬ」としています。一方、京都大学のなかでの「文化祭開催をめぐるアジプロ活動」として

十月下旬、京大同学会(註)では、京大行幸の十二日を中心として八日頃から二旬に亘る文化祭を計画し、学校当局に申入れをしたが、学校当

四、京大天皇事件

宮内庁所蔵の国家警察資料から

従来の京大天皇事件の研究では、この事件に対する日本共産党の役割として、京大細胞を指導していた榎並公雄(経済)が、理学部の学生中岡哲郎に、同学会の「公開質問状」を依頼したことが有名です(拙稿「京大天皇事件」から技術史家へ―中岡哲郎に聞く―)。

『アリーナ』第一号、二〇一一年)。最近中岡は、小学館の『二冊の本』(二〇一五年)に、「技術史家が見た戦後七〇年」という記事を連載しており、その第六回に「原爆展から天皇事件へ」を書いていきます。ここで榎並を中岡に紹介したのは、経済学部の学生で友人の森田桐郎であること、昭和天皇の京大行幸の日は、榎並に言われて登校せず、後に結婚する浅沼百合の実家に隠れていたことなどを語っています。また事件後も終始自分をかばってくれた、同学会委員長の青木宏と榎並に感謝しています。

しかし最近、宮内庁書陵部所蔵の「総務課 昭和二十六年 幸啓録 十三ノ

二」のなかの「近畿行幸に際しての京都大学事件」という文書を見ることができました。国家地方警察本部警備部警ら交通課が宮内庁に出した文書です。

これには、
一、はしがき、
二、事前の状況、

(一) (共) 系京大生を中心とする事前の状況、1日共府委(府委員会)の指令、2京都大学の天皇行幸をめぐる動き、3京都国際青年大会をめぐる動き、4警察官学内立入に対するアジプロ(アジェーション、プロパガンダ―引用者)活動、5米人宣教師乗用自動車毀損事件、6水谷長三郎居宅損壊事件、7行幸当日午前中における京大同学会を中心とする左派学生の動き、(二) 警備計画、1市警の警備方針、2当日の市警の警備配置、

三、当日の状況、
四、事後の状況、

(一) 事後における学生の動向、1

行幸当日の動き、2その後の動き、(二) 学校当局の措置、(三) 市警の事後措置、
五、本事件に対する反省、
などが書かれています。

もちろん同資料は、天皇事件(当時は「京大事件」と呼んでいました)は、共産党の計画的な犯罪だったというバイアス(偏見)で書かれていて、公平な調査とは言えないものです。学生や組合の立場から見た事件の概要は、以前本誌二〇八号で書いています。それをご参照ください。ただ、今まであまり知られていない事実が書かれていますので、ここに紹介します。

「はしがき」では、一九五一年「十一月十二日 天皇陛下が京都大学に御成りの際一部(共)京大生を中心とする学生達の陛下に対する常軌を逸した行動が混乱を招き、数百名の警察官が学内に出動」と、事件が共産党系学生の仕事だと書かれています。この「極悪事犯」は、「御巡幸を機として日共と密接な関連に立ちつ、学校当局及び市警当局を窮地に陥れ、かつ、反帝アジプロ活動を徹底するとともに左派学生の反権力闘争について訓練の場として利用するため企図された計画的な事件

が、その簡単な略史と五〇年一〇月レ
ッド・パージ反対闘争、十一月の「前
進座事件」、更に「円山事件」と続き
ますが、「その後指導部は日本共産党
主流派と国際派に分裂、主流派が押え
ていたが、今年の夏に入って両者が合
流している」と伝えていきます。

京都国際青年大会をめぐる動き

一月に入ると同学会と京大細胞は
——「天皇が来ても文化祭を開かせろ
——」「天皇歓迎に使う金を文化祭に廻
せ！」という文化祭に関するピラを配
っていました。一月七日の京都国
際青年大会に対する協賛のピラも撒く
ようになりました。七日当日は、京大
西部構内を、午後三時半頃出発した京
大生約二〇〇名が――

「税金を天皇の旅行に使うな、子供
達の教育費に廻せ！」

「青年を肉弾に使う（講和・安保）
二条約反対！」

「天皇制復活を平和勢力でぶっとば
せ！」

「反戦の闘士大山郁夫を迎え、デモ
で円山え！」

「聴けわだつみの声を再び繰り返す
な！」

等々のピラを道々で人に渡し、反戦平
和をアピールしながら、立命館大学
に行きます。そこで立命館の学生約
一〇〇名、同志社大学の学生約一〇〇
名、鴨沂高校の生徒四、五〇名と合流、
途中デモコースを違反して、米人女宣

教師に対する「不法行為」を行います。
午後五時半頃、大会々場たる労働会
館に入っていますが、午後六時半頃
にそこを出発して、円山公園音楽堂
並びに華頂会館において開催中の解
放運動物故者慰霊齋場にデモでもつ
て参加します。その途中に学生の一団
四、五〇〇名は、度々デモコースを変
更し、社会党代議士水谷長三郎私宅
をデモコースに加え、「暴行行為」を
働くなど、「当日の学生の行動は、極
端に常軌を逸するに至った」と言わ
れています。「米人宣教師乗用自動車
毀損事件」とは、デモ隊が――

午後四時五十分頃当日の会場たる
労働会館に赴く途中、市役所前にさ
しか、つた。丁度その時米人宣教師
の乗用車と該場所でもバッタリ出逢っ
た。自動車はこのデモ隊を避けて道
の片側停車したところ、ワッショ、
ワッショともみ出した学生デモ隊
中の一部の何者かこの停車してい
た自動車のフェンダー（泥よけ―引
用者）を足で再三三三三三これを毀損
せしめた。

当時の学生の反米意識の一端がうか
がわれる事件です。

また「水谷長三郎居室襲撃事件」
とは――

十一月七日午後五時より同七時ま
で、京都市下京区寺町通り四条下
る「労働会館」に於て開催の京都市
交通労働組合常任執行委員同組合青
婦対策部長 平岡定男 当二十八

の主催する京都市国際青年デー大会
に出席した京大生武田正博及び小幡
哲夫（雄）の両名は同大会において、
武田が議長団の一員となり、小幡（マ
マ）は学生団（京大、立命、同志社
その他）を代表して「平和、安保両
条約反対」「吉田内閣打倒」「学問思
想の自由」等の議案を提出し、その
説明の際小幡が、「水谷長三郎は単独
講和に賛成、安全保障協定に反対し
た男で、かつて治安維持法の出たと
きもこれに賛成して山宣（山本宣治）
を孤立せしめた男であり、勤労者の
味方といっているが、これは憎むべ
き裏切者である。」

と痛烈に批判して大衆を扇動し、次
に両名は平岡定男から申請し許可と
なったコース、即ち労働会館より寺
町を三条通え三条通を大和大路通り
に、同通を四条に、四条を円山公園
音楽堂に至る集団示威行進に、学生
団体約五百名の自治的整理員として
の責に当り、概ねその団体の先頭
に立ち午後六時四十分頃同所を出
発、申請道路を経て同七時頃、大和
大路通り四條上る附近に於て、「水長
を倒せ、水長を倒せ」と扇動し、小
幡は同デモの責任者である平岡に対
しスクラムを組み駆足して行進す
ることを要求、その大衆の氣勢を利
用して、一気に許可順路を無視し、
四條通を横断、大和大路を南下し、
団栗通を西進川端通りを北行し、そ
の通の京都市東山区川端通り四條下

る宮川筋二丁目二三三水谷長三郎居
宅近くにおいて「水長を倒せ、水長
を倒せ」と大衆をかり立てて、その
結果、午後七時三十分頃、同水長宅
に団体並びに大衆の威力をもって、
そのデモ隊員の一部をして、プラカ
ード、旗竿及び投石によって、表入
口の硝子戸（中略、など）、合計約
二千九百五十円の損害を与えた事犯
が惹起し、小幡は十一月七日、暴力
行為等処罰に関する法律違反被疑者
として京都地裁発布による逮捕状に
より逮捕され、武田は逃亡中で未逮
捕である。（十一月二十一日現在）

小畑の逮捕は、フレイムアップ（で
つち上げ）であり、水谷宅襲撃事件は、
地下の軍事組織「Y」の行ったものだ、
と小畑自身も語っています。当時の細
胞会議の発言でも、小畑は極「左」的
な軍事方針には反対していたという証
言もあります。小畑については、拙
稿「京大天皇事件前後―小畑哲雄氏に
聞く―」（小樽商科大学『人文研究』
一一〇号）を参照してください。

天皇事件の当日

まず「京大同学会は、前夜来特異の
動きを示さず、僅かに四、五名（の）
学生が事務所においてアジピラの印刷
に専念していたに過ぎなかったが、午
前八時過より主導的分子が参集するに
及んで、漸くその動きが活発となり、
午前九時過頃より四、五名の尖鋭分子
が学内及び学校附近の街頭に進出し

て、天皇に対する「公開質問状」及び「京大
大学長に対する申入書」を学生等に配
布しています。

午前一〇時三〇分頃より、「京大同
学会中央委員玉井仁、同村(秋)元恒生、
京大細胞玉垣長興、同豊田善次」他二、
三名が、学生代表の名義で、学長室に
おいて服部峻治郎学長と面会し、「公
開質問を行うため、天皇と学生が面会
し得る機会を与えられるよう、学長の
御尽力を要望する」旨、強行に申し入
れています。しかし学長からは、全然
相手にされなかったため、学生代表た
ちは益々尖鋭化しましたが、角南正志
学生課長の慰撫によつて会談はもの別
れとなり、午前一時に学生代表は引
き上げました。その後同学会は、同学
会前の掲示板に「原爆スチール写真」
を若干枚掲示し、一日日に逮捕され
た同学会中央委員小畑哲雄の救援カン
パを開始しています。

午前一一時三〇分頃には、「京大同
学会左派学生が行幸御進筋である京大
吉田分校前に、「天皇制反対」、「小幡
(畑) 哲雄の検挙反対」「原爆展を公開
せよ」「大山郁夫を迎えよ」と大書し
たプラカード四本を掲示したので、大
学当局は急遽撤回を命じたが応じない
ので、守衛などを使って撤去していま
す。午前一一時五〇分頃、玉井ら数名
が、角南学生課長に抗議しますが、要
領を得ないので、一二時三〇分頃から
学長に抗議を申し入れますが、結論を
得ないまま、天皇の来学になります。

天皇の来学の様子は、次のように書か
れています。

当日は正門より表玄関迄に千五百
名の学校職員学生が御通路に沿つて
奉迎のため整列していたが、御料車
の到着を間近に迫った。午後一時十
分頃吉田分校(旧三高)より、京大
生約五十名が駆足で京大正門内に入
り京大(共)細胞 米田豊昭の指導
により、奉迎者の最前列を占めよう
としたため、奉迎線が乱れたので、
京大職員及び守衛等がこれを制止
し、現場が混乱して御料車の御通行
を妨害する虞があつたので、所轄川
端署員が整頓に当り、幸にして御料
車到着時の御通行には支障なく、陛
下には午後一時十八分京大本館表玄
関に御到着遊された。

天皇陛下が服部学長の御先導によ
り、本館第一会議室に御成りの直後、
表玄関左右両側に奉迎を装い待機し
ていた、京大(共)細胞員を中心と
する尖鋭学生約七十名位がスクラム
を組み、御料車及び前駆車を取囲み、
口々に「天皇に面会させよ」を叫び、
京大職員、守衛等の制止にも応ぜず、
遂に彼等は「平和の護り」を合唱し
て氣勢をあげ、御料車の周囲及び御
帰還の御道筋が混乱状態に陥入つた
ので、現場警衛指揮官は、学校当局
に警告し整理に当たさせたが、学生
側は衆を待んでこれに応ぜず、口々
に「天皇に面会させろ」「天皇の馬

鹿野郎」「天皇帰れ」「天皇制反対」「大
山郁夫を迎えよ」「ポリ公帰れ」と
怒号罵声を浴せ、一般学生等奉迎者
の内に潜入していた左派京大生及び
立命館大学、同志社大学、鴨沂高校
等の一部左派尖鋭学生等もこれに呼
応し、約二百名が「インターナショ
ナル」「平和を護れ」「世界に繋げ花
の環に」を合唱、或いは「天皇制反対」
「天皇行幸費を育英資金に廻せ」「天
皇陛下万歳と、いつて死んで行つた
先輩を忘れるな」等の四、五本のプ
ラカードを打振るなど現場は喧騒を
極め、午後一時三十分頃、学校当局
が学長名により発した退去命令、及
び市警搬送車による勧告をも無視し
て学生達は氣勢をあげ、事態は益々
混乱するに至つたので、学校当局は
事ここに至つては、自らの手で事態
を拾取することは困難であるとし、
折柄本館表玄関において警衛指揮に
当たつていた永田市警本部長による
実力排除を要請した。

本部長は学校当局の要請もあり、
且つ御料車及び陛下御帰還の御安全
を確保する見地から、直ちに附近近
衛中学校に待機中の予備隊を出動せ
しめ、午後一時四十分、越軌化した
学生群及び一般奉迎者を整理し、両
側に押し分けて戦線配置による強固
な警備態制を整え、御料車、及び御
帰還の御道筋を確保した。

この警備のおかげで、各学部からの

「進講」が長引いて「十二分遅れ」と
なつていた行幸が、「平和を護れ」を
合唱する左派学生達にも、御会釈を賜
りつ、午後二時十三分、御無事に京
大正門を御出遊ばされた」のです。何
も事故のないこれだけの事件でした
が、同学会は解散させられ、八名の
中央委員は「無期停学」処分を受けます。
新聞や国会までが、「共産党の陰謀」
と騒ぎますが、情報をリークしたのは、
国警や市警だと考えられます。

この資料には、市警からの情報とし
て「十一月十一日 午前十一時より午
後五時までの間、京都市下京区七条通
り大宮西入る大和企業組合 田村寛一
弟(郎)において日共府委 春藤誠
一、同小山真一、オルグ竹村寛、京大
生三名が鳩首協議していること」とい
う記事が載っていますが、何を相談し
ていたかはわかりません。共産党の直
接指導と京大天皇事件を結びつけるの
には、いささか弱い報告書ですが、事
前にいくつかの事件や運動のあつたこ
とはわかります。

(付記。文中に示した諸機関や榎並公
雄氏のご遺族、小畑哲雄、安藤福平、
西山伸氏などから資料を提供していた
だきました。また岩井忠熊先生をはじ
め五〇名以上の方々からヒアリングを
行いました。その一部はインターネッ
ト上に公開していますので、「京大天
皇事件」で検索してください。)